

令和2年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣総理大臣賞

# その人がその人らしく暮らせる村づくり

## 高知県日高村 特定非営利活動法人日高わのわ会

### 活動の背景、内容等

日高村で活動が始まった15年前には、6300人いた村民が現在は5000人程度になっていますが、当時から、農家などの自営業の方以外は村外へ仕事に出かけ、日中の村内には、何らかの事情があり働けない人や、働かない人たちが（子育て中の親子、高齢者、障がい者、引きこもり）残っていました。そういった一般就労につけない、ついでにない方々の中で、子育て支援センターに集まるお母さんたちが、地域で何か役に立つことをはじめようと、「日高村民有償ボランティアグループわのわ」を結成。子育て支援センター、高齢者のためのデイサービス、障がい者の居場所事業等の受託事業からはじまり、誰もが年齢や障害に関係なく、

役割を持ち社会参加できる仕組みを作るために住民活動として今も成長をしています。

わのわとは、「人の輪」「話の話」「平和の和」がつながり大きな輪となることを願った団体名です。

### 活動内容

「年をとっても障害をもってもその人らしく暮らせる日高村」をミッションに「出来る人が、出来る時間に、出来ることを」仕事として続けていける場を提供しており、以下の5部門に分かれて、地域の困りごとを解決する仕事を作っています。誰かの役に立ち「ありがとう」の言葉がお金には代えがたい対価としていただけることがモチベーションを維持するための原動力



トマトを中心に笑顔は活動のエネルギー



です。

★喫茶部（喫茶2店舗運営・高齢者の配食サービス・地域企業に宅配弁当）

★福祉部（障害者就労支援B型と移行型・障害者のグループホーム・障害児の日中一時・指定相談事業）

★販売部（トマトを使った加工品の製造販売・イベント出店）

★総務部（集会所や村の駅清掃作業・日高村物



福祉部での加工品仕上げ作業

流支援事業・軽度生活支援事業・家事手伝い・農作業請負事業・軽作業）

★児童福祉部（託児ルーム・障害児のお預かり・日下小学校とのはたけクラブ・高知大学生との地域おこし活動）など

★指定管理事業 eat&stayとままと（令和元年7月より）

### 地域資源の活用

日高村の特産フルーツトマトを使ったトマトソースを平成18年から作っています。トマト農家への農作業支援の際に、規格外として廃棄されるトマトがもったいなく、直営する喫茶にてトマトパスタを提供したところお客様からソースが欲しいと要望があったためです。そこで、瓶詰め商品を作りましたが加工経験の全くない主婦の集まりですから商品に自信もなく、自社店舗での販売でした。農家さんの期待も大きく買い取った規格外トマトが2トン在庫となり一度廃棄処分して一から外販を決意、売れる商品加工品を作るために高知大学フードビジネスクリエーターや高知県の弥太郎商人塾等に通い、流通に乗せることができる商品開発を進めました。今では年間7トン以上のトマトを加工し、東北から九州まで販売できるほどになりました。これは、平成30年2月当時の安倍首相の施政方針演説でも取り上げていただきました。地

域活動では、5年前から始まった日高オムライス街道でのお約束が「村のトマトを使う」というものでしたが、村のトマトの収穫時期は11月から6月までで、フレッシュなトマトがない7月から10月までをサポートするために専用トマトピュレを開発し、全店舗10店舗が使用してのオムライス街道が誕生。4年間で経済効果4億円となり影の立役者として活用しています。

### 創意工夫

今では、一般的になっている価値観で、「ヒト・モノ・コト」を意識



販売部の加工品



日高村オムライス街道参加メニュー「オムとまカレー」

した取り組みや小規模多機能な活動内容を15年前から継続していることが全国的にも珍しく直近3年間の講師実績が22件あり、特に地方創生フォーラムに登壇後、内閣府の取りまとめた報告資料の影響もあってか視察実績も25件449人と多くの方に日高村へ訪れてもらうことができました。県内の高校（2校）や大学（3校）の授業での講師も受けて地域活動を意識した学生の育成支援も行っています。

そのほかに、5年前から高知大学の学生団体「あだたん!!!」を受け入れ、共同で企画するイ



児童福祉部での小学生と行った収穫祭

ベント「日高メシふえすていばる」の企画・運営にも参加してもらっています。それにより、県内の他の学生が来店などで関わるきっかけになり当初は学生1団体から10団体まで増えています。直近では、当該団体の卒業生のつながりで、東京の学生団体ともつながり、東京での日高村を紹介するイベントなどが開催されています。（第6回日高メシふえすていばる参加人数約2000人）

### 成果

NPO法人日高わのわ会のミッションの一つである、一般就労につけない・つかないような一般社会から切り離された社会的弱者と呼ばれる人たちが再度社会とつながれる場を提供することにより、そこで活動することで新たなコミュニティを形成してきました。また、小規模多機能型の事業を展開することで、サービスとサービスの隙間に落ちているニッチな住民ニーズに対応することで地域住民の日高村で生活することへの満足度を高めることができている。数字で見ると、現在提供



「eat & stayとまとと」の内観

している全サービスの述べ件数は約1600件で、これは村民の約4人に1人は利用していることとなります。

（特定非営利活動法人日高わのわ会 事務局長

安岡千春）